

見えないお金は電子マネーだけではなく。インターネット上にはソーシャルゲームなど一見無料のようでお金がかかるサービスがあふれている。子どもたちにはそれらの多くが魅力的に映る。突然の高額請求に驚く前に、親が知っておくべきことは多い。

見えないお金

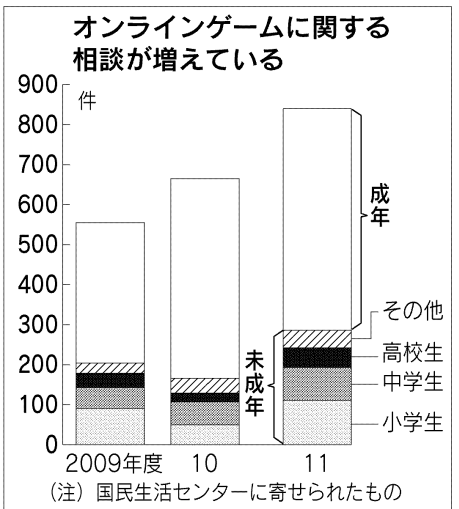
我が子の小遣い新事情

「限度額いっぱいでもう使えませんか」。昨春秋、高校2年の息子を持つある母親は、クレジットカードを返すおとした時、店員から思いもよらぬ宣告を受け驚いた。同じころ、夫にもカード会社から「一晩に何回も決済されているが大丈夫か」との警告の電話があったという。

不審に思い息子にただすと、親名義のカード5枚を無断で使い、携帯電話からネット上のソーシャルゲームをしてきたと判明。2カ月間で使った料金は約400万円に達していた。

原因は「コンプリート(コンプ)ガチャ」。先月、消費者庁が景品表示法違反にあたる判断し、ソーシャルゲーム大手が廃止したアイテム商法にはまっていた。ゲームを有利に進める希少なアイテムを手に入れるため、「ガチャ」と呼ばれるくじを1回数百円で購入。アイテムをそろえようと何度も繰り返すので、高額の料金を費やす例が続出している。

国民生活センターの調べでは、無料をうたうオンラインゲームに関する相談は



年々増えており、2011年度は840件。このうち未成年者が絡むものは286件、34%を占める。小学生が111件と最も多い。今や小学生も2割が携帯電話を持ち(内閣府調べ)、ネットへの接触は常態化している。でもバーチャルな世界でかわされるお金は、全く見えない。「オンラインゲームは親のカードを使ったり、携帯電話料金に上乘せされたりして、お金を持たなくてもできる。子どもは現実のお金が使われていることを意識していない」と同センターの水越智子さんは解説する。

ネットゲームで400万円

実際、コンプガチャが廃止されても、使い方に注意が必要な仕組みはなお残る。たとえば、ガチャには1回300円が11回3千円でお得、とつたう「11連続ガチャ」まである。「クリックして3千円をするのにわずか2秒。パチンコより早い。パチンコは財布からお金を出すが、ネットでは感覚がマヒするのだらう」。電子商取引に関する消費者相談を受けている社団法人

ECネットワークの原田由里理事はこう批判する。同理事は、ゲーム会社は今後もお金を払わせる新サービスを必ず出してくると指摘。それゆえ「親は子どもがそういう環境にあることを知って、関心を持ってほしい」と呼びかける。本来、親がきちんと子どもにお金の管理法を教える

ければ、トラブルは防げるはず。だが、厳しい見方もある。ベネッセ教育研究開発センターの樋口健主任研究員は「今の親たちは意識が弱い」と指摘する。

同センターが昨年9月、小中学生の親に「現在の子育ての気がかり」を尋ねたところ「子どものお金の使い方」は15位。調査は1998年から4回目だが、傾向はずっと変わらない。親の目は受験と就職に関するものに向きがち。「でも、将来日本経済が伸びない中で、限られたお金を使うスキルを子どもが身につ



親も直視し 金銭感覚養う

「おこづかい教育出前教室」(千葉市花見川区)

「おこづかい教育出前教室」(千葉市花見川区) 摂待卓が担当しました。

許諾番号30031802 日本経済新聞社が利用を許諾しています。